

エコベースE750 土間設置手順例

エコベースは重量物のため、運搬時足に落としたり、手を挟めないよう、取扱いには十分注意して下さい。

1. 土間の整地



エコベースより広く土間を整地します。
砕石 150 mm以上、捨てコンクリート 50 mm分掘り下げて、沈み込まなくなるまでしっかりつき固めて下さい。可能であればランマでつき固めて下さい。砂質等で土間が締らない場合は、砂とセメントを混ぜて地盤整地を行う必要もあります。地中抵抗アンカーを打ち込むため、掘り下げた時に埋設物をご確認の上、アンカー打ち込み位置を決めて下さい。

2. 砕石を敷く



沈み込みを防ぐため砕石を敷き、つき固めます。
砕石サイズは 15~20 mm程度が目安です。
(砕石は現場でご準備下さい。)

3. 捨てコンクリートを敷く



ドライコンクリート 2袋に 15~20 mm程度の砕石を混ぜ、約 4割弱の水で固めに練り混ぜ、捨てコンクリートを作り、砕石の上厚さ約 50 mmに敷き、水平をとります。

4. エコベース 1 本目設置



捨てコンクリートが乾かないうちにメンテナンス面、壁からの距離などを確認し、エコベース 1 本目を設置します。

5. 連結ボルトカット加工



片側 30mm の位置に
ナットをセット



反対側 15mm の位置に
ナットをセット

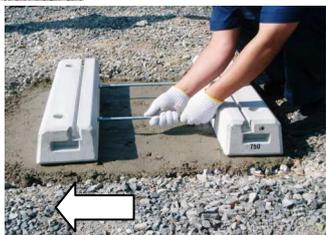
連結ボルトは付属の M12 寸切りボルトを 2 本用います。エコキュートのアンカー固定寸法からマイナス 90mm にボルトカッターでカットします。
例) アンカー固定寸法 525mm の場合⇒435mm

6. 連結ボルト取付け



エコベース 1 本目の側面に埋め込まれているインサートに、30 mm の位置にナットをセットした M12 寸切りボルトを、ナット位置までねじ込みます。

7. エコベース 2 本目設置



レール間の機器アンカー取付け寸法を測り 2 本目の位置を決め、ボルト端から 15mm の位置にセットしたナット位置まで寸切りボルトをねじ戻し、エコベース同士を連結します。

8. ナットを締め水平をとる



エコベース 1 本目 2 本目ともナットを 19mm スパナで締め、エコベース全体の水平をとります。

9. レールに機器固定用ボルトを設置



レールに付属の機器足取付け用どぶ付 M12×50mm ボルトを、メンテナンス側ブロックに 1 本、奥側ブロックに 2 本セットします。

10. プレートで挟む- 1



3/8 寸切りボルトに 3/8 ナットを面取りしてある方を内側にしてセットし、3/8 袋ナットでプレートを挟みます。

11. プレートで挟む- 2



ナット径 (3/8 ナット) に合ったスパナで、通常の人が手で締め付けられる程度の強さで締め付けます。

12. 地中抵抗アンカー打ち込み準備



アンカー上部

ナットを端までねじ上げ、ハンマーで叩く面を作ります。



アンカー下部

ワッシャーをナットで挟んだ方が下です。こちらを下にして地中に打ち込んで下さい。

13. フィルコンR練り混ぜ



1 袋 5kg につき 0.9ℓの水で高回転ハンドミキサを用いて約 3 分間練り混ぜてください。



14. 地中抵抗アンカー打ち込み



エコベースの貫通穴から地中抵抗アンカーを差し込み、ハンマーで地中に打ち込みながら、練り混ぜたフィルコンRを、打ち込んだアンカーの隙間に注入してください。時々アンカーを動かし、隙間によく入るように注入してください。この作業により地中で鉄筋入りのコンクリートの柱が形成されます。

こんな時は・・・地中抵抗が打ち込めない場合

1) 打ち込み途中で埋設物に当り打ち込めない



エコベース上面でアンカーをカットし、アンカー上部を逆にして叩き面を下にし、フィルコンRを流し込みながら地中に打ち込んで鉄筋と結束して下さい。

2) 貫通穴の下に埋設物があり打ち込めない



エコベース内のスペースを使い埋設物を避けアンカーを打ち込み、鉄筋と結束して下さい。

15. ドライコンクリート練り、投入



ドライコンクリート1袋につき2.3ℓの水でよく練り混ぜ、エコベース内にブロックの高さまで投入します。ブロック上面まで投入したら凸凹をなくし強度を得るために棒突きをして下さい。

16. ドライコンクリートならし、仕上げ



投入したドライコンクリートの表面をコテで仕上げ、養生シートで養生して下さい。

プレートは付けたまま外観をきれいに仕上げ、完成とします。

エコキュートタンクユニットはレールにセットしたボルトを用い、**必ず3ヶ所(4本脚エコキュートは4ヶ所)**で固定して下さい。その際19mmレンチ等の工具で緩みがないよう確実に締めつけて下さい。

<エコベース E750 完成>

配管を隠す場合



配管が連結ボルトにぶつからないよう立ち上げて下さい。

<注意> これは施工一例のため、地盤が軟らかい場合や寒冷地などは砂利の量を増やすなど、現場に合わせた施工をして下さい。